

# 外来での抗がん剤治療における薬剤指導・薬薬連携について

兵庫県立淡路医療センター

近年、抗がん剤治療を外来で行うことが増えています。安全に治療を続けていくために、副作用やその対策を知っておくことが大切です。今回は、薬剤師が外来での抗がん剤治療に関して行っている取り組みを紹介します。

## 1. 薬剤指導

抗がん剤の種類は様々で、副作用や投与スケジュールも様々です。病院薬剤師は、抗がん剤治療が始まる際にお薬相談室やベッドサイドでパンフレットなどを用いて使用する抗がん剤や副作用、治療スケジュールなどの説明を行っています。また、定期的に薬剤指導を行い、副作用の確認や、吐き気止めなどの使用方法の説明などを行っています。患者さんの状態に合わせて、副作用を軽減するための薬剤の提案などを医師に行うこともあります。



## 2. 保険薬局との連携(薬薬連携)

病院薬剤師は、抗がん剤に関する薬剤指導を行った際に、治療の内容を記載したシールをお薬手帳に貼付しています。お薬手帳を見ることで、保険薬局の薬剤師も抗がん剤治療の内容を把握することができます。保険薬局から病院に対して患者さんの情報を提供するトレーシングレポートの運用も開始しています。

他にも、病院・薬局薬剤師合同で研修会を開催し、薬や疾患について学んだり、業務内容の共有などを行っています。

外来でも安全に抗がん剤治療を行うために、保険薬局の薬剤師とも連携を図りながら取り組んでいます。気になることや不安なことがあれば、気軽に薬剤師にご相談下さい。

